

平成17年7月25日

3号機残留熱除去系（A）ストレーナの金網の補修について

定期検査中の当所3号機において、圧力抑制室内の水中に設置されている残留熱除去系*1ストレーナ*2の点検を実施していたところ、平成17年5月31日午後3時15分頃、当該系統（A）のストレーナの吸い込み口であるパンチングメタル（鋼板に直径12ミリの穴が配置されているもの）を覆っている金網の当該パンチングメタルの穴の位置に約8ミリ×約5ミリ（通常の網目：約1.5ミリ×約1.5ミリ）の破れが1箇所あることを当社社員が確認しました。

また、これ以外にパンチングメタルの穴部以外のところでも金網が破れている箇所が13箇所（A系10箇所、B系1箇所、C系2箇所）確認されました。

なお、これによる外部への放射能の影響はありませんでした。

（平成17年6月1日お知らせ済み）

当該ストレーナの金網が破れた原因は以下のとおりと考えております。

圧力抑制室内に水が張られた状態では、これまでの回収物のほとんどが軽量物であり、この落下時およびポンプ運転時のストレーナからの吸い込みにおいても金網が破れる可能性は低いと考えられます。第3回定期検査時（昭和64年1月～平成2年11月）に唯一圧力抑制室内の水を抜いて塗装修理工事を実施しておりますが、この際、当該ストレーナ近傍で資機材を使用した作業をしており、養生はされていたものの何らかの接触により金網が破れたものと推定いたしました。

当該金網の破れ部については、異物を吸い込む可能性を低減する観点から、当該金網の破れ部のうちパンチングメタル穴部および穴部に近い箇所を閉止板で塞ぐ補修を行います。本補修を行っても、残留熱除去系の機能に影響を及ぼすものではありません。

（添付「残留熱除去系概略図」参照）

また、次回の定期検査時において、当該ストレーナを含む非常用炉心冷却系*3のストレーナについては、全て交換する予定です。

なお、今後も異物管理および作業管理の徹底を図り、圧力抑制室内の最終点検時にストレーナの点検を実施いたします。

以上

*1：残留熱除去系

原子炉を停止した後の燃料の崩壊熱の除去（燃料の冷却）や非常時に原子炉水位を維持する系統（A系、B系、C系の3系統ある）。

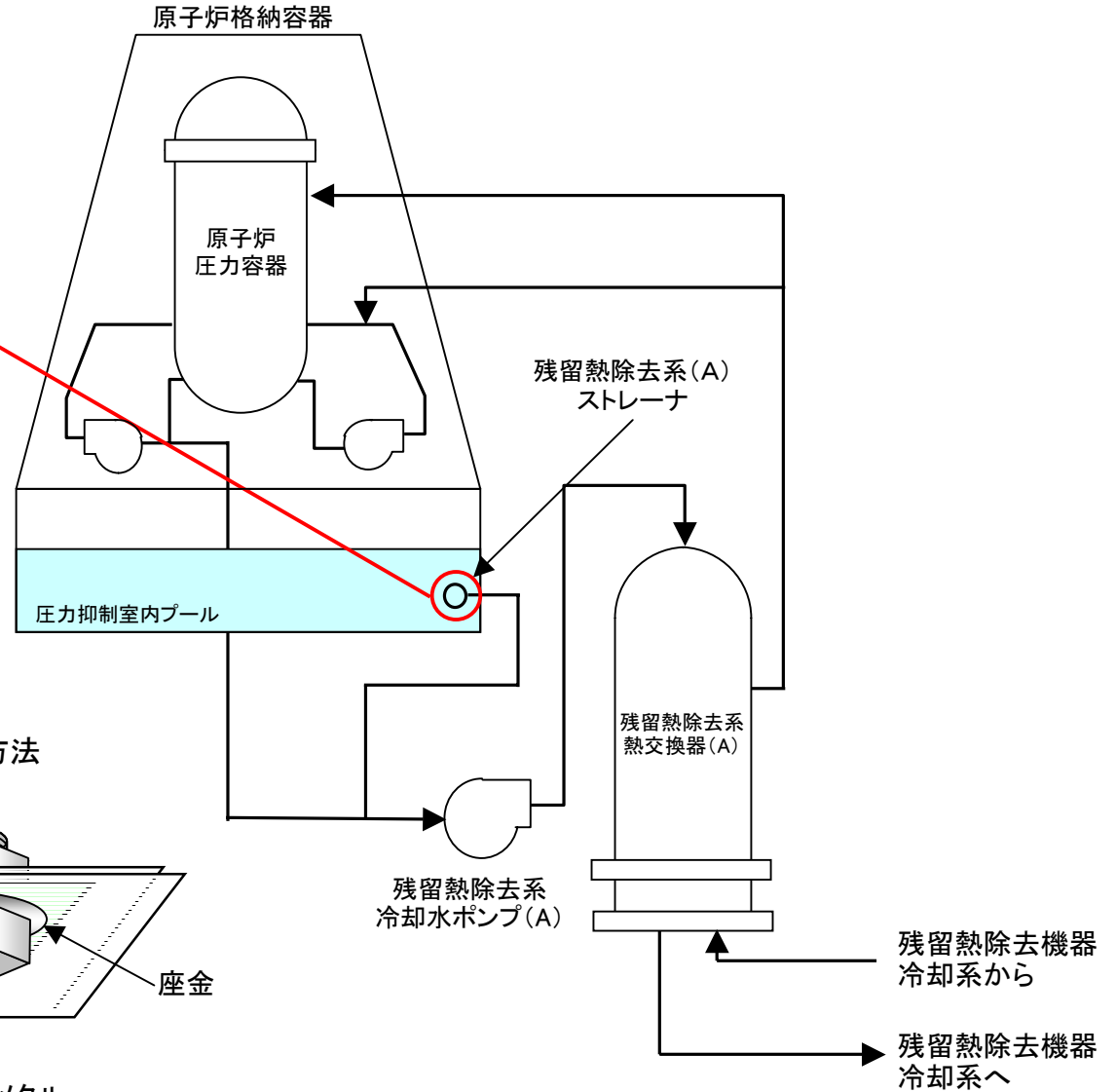
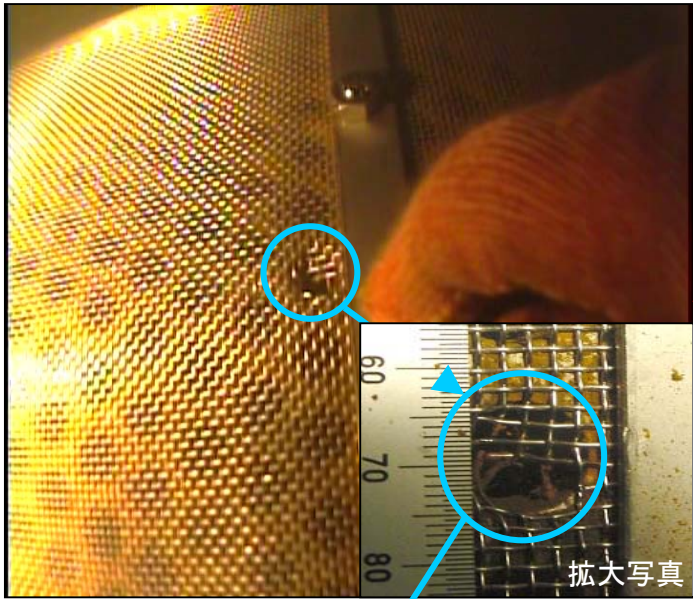
*2：ストレーナ

残留熱除去系の水源である圧力抑制室内プールに異物があった場合にポンプに吸い込まれてポンプ等に悪影響を与えるのを防止するため、プール内の配管入口に設置されている。

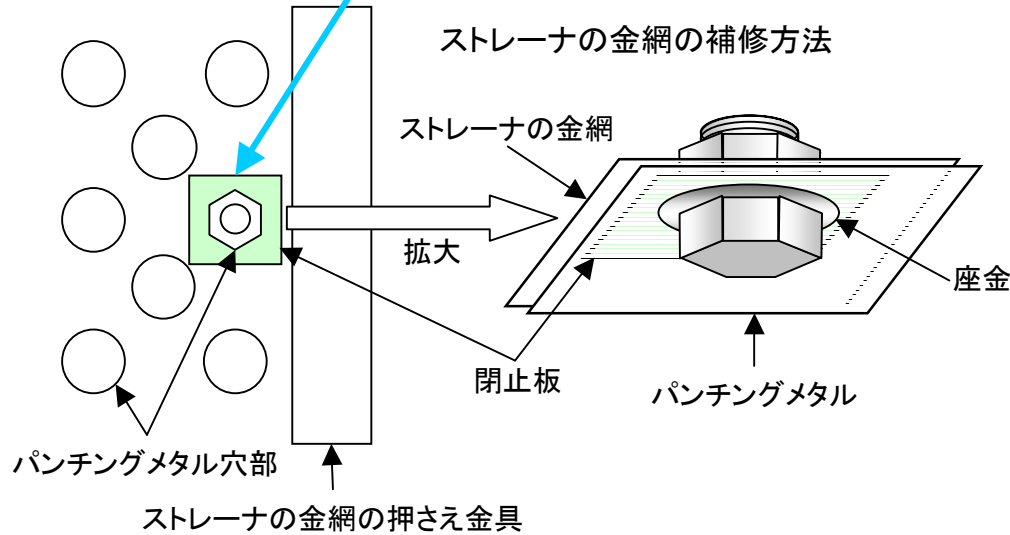
*3：非常用炉心冷却系

冷却材喪失事故時、炉心の過熱による燃料および被覆管の破損を防止するため、原子炉水位が異常低下した場合に、原子炉に水を補給する系統。

ストレーナの金網の破れ箇所



ストレーナの金網の補修方法



残留熱除去系概略図